

「各教科・領域における食育との関連項目一覧表」(高等学校)

地理歴史

新科目 (現行科目)	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
地理総合 (地理A)	B国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解	(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察 イ 世界の生活・文化の多様性	人間生活を取り巻く環境	人々の生活と気候 人々の生活と産業・文化	稲作 市場 遺伝子組み換え作物 農業
	B国際理解と国際協力 (2)地球的課題と国際協力	(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察	地球的課題と私たち	世界の食料問題	フェアトレード 大量の食料の廃棄 地産地消 飢餓 飽食
地理探求 (地理B)	A現代世界の系統地理的考察 (1)自然環境	(2)現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境	現代世界の系統地理的考察	自然環境	農産物の品質低下や収穫量の減少 農産物の栽培適地が変化 日本は資源や食料を多くの国に依存 食料問題
	A現代世界の系統地理的考察 (2)資源、産業	(2)現代世界の系統地理的考察 イ 資源、産業		資源と産業	食料不足 飢餓 食品ロス フェアトレード 食料自給率 地産地消 食の安全
	B現代世界の地誌的考察 (2)現代世界の諸地域	(3)現代世界の地誌的考察 イ 現代世界の諸地域	現代世界の地理的考察	現代世界の諸地域	食生活 食物の栽培
	C現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1)持続可能な国土像の探求	(3)現代世界の地誌的考察 ウ 現代世界と日本諸地域		現代世界と日本	日本は資源・エネルギーや食料などを海外からの輸入に大きく依存 食料問題
歴史総合 (日本史A) (世界史A)	A歴史の扉 (1)歴史と私たち	(1)私たちの時代と歴史	私たちの時代と歴史		食及び食物に関する歴史
	Dグローバル化と私たち (1)グローバル化への問い	(3)現代の日本と世界 ウ 現代からの探究	現代からの探究	日本農業の現状	食料自給率 農業 農地面積 コメ
日本史探究 (日本史B)	D近現代の地域・日本と世界 (4)現代の日本の課題の探求 ③伝統や文化の継承と創造	(3)伝統や文化の学習について			食文化
世界史探究 (世界史B)	A世界史へのまなざし (2)日常生活から見る世界の歴史	(1)世界史への扉 ウ 日常生活にみる世界の歴史	世界史への扉	砂糖から見た世界の歴史	砂糖 紅茶 コーヒー
	E地球課題の世界 (4)地球世界の課題の探求	(5)地球世界の到来 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題	資料を活用して探究する地球世界の課題		世界の食料危機問題

公民

新科目 (現行科目)	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
公共 (現代社会)	A公共の扉 (2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	(2)現代社会と人間としての在り方生き方 オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	現代の経済社会と私たちの生活	食の安全とこれからの日本の農業	食料自給率 食料安全保障 トレーサビリティ
倫理	B現代の諸課題と倫理 (2)社会と文化に関わる諸課題と倫理	(3)現代と倫理 イ 現代の諸課題と倫理	現代の諸課題と倫理	国際平和と人類の福祉	フェアトレード
政治・経済	A現代日本における政治・経済の諸課題 (2)現代日本における政治・経済の諸課題の探求	(3)現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題	現代日本の政治や経済の諸課題	農業と食糧問題	食料自給率 食料生産の効率化 食料の安定供給
	Bグローバル化する国際社会の諸課題 (1)現代の国際政治・経済	(3)現代社会の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸問題	国際社会の政治や経済の諸問題	国際経済格差の是正と国際協力	フェアトレード

理科

科目	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
科学と人間生活	(2) 人間生活の中の科学 ア (イ) 物質の科学 ① 衣料と食品	(2) 人間生活の中の科学 イ 物質の科学 (イ) 衣料と食品	物質の科学	衣料と食品	三大栄養素 食の安全 食品添加物
	(2) 人間生活の中の科学 ア (ウ) 生命の科学 ① 微生物とその利用	(2) 人間生活の中の科学 ウ 生命の科学 (イ) 微生物とその利用	生命の科学	微生物とその利用	発酵食品 食品の保存 腐敗 乳酸菌
	(3) これからの科学と人間生活	(3) これからの科学と人間生活	これからの科学と人間生活		食品に含まれる天然色素や合成着色料による毛糸の染色
化学基礎	(1) 化学と人間生活 ア (ア) 化学と物質 ⑦ 化学の特徴	(1) 化学と人間生活 ア 化学と人間生活とのかかわり (イ) 化学とその役割	化学と人間生活	物質の性質と役割	食品添加物
	(1) 化学と人間生活 イ 身近な物質や元素について、観察・体験などを通して探求し、科学的に考察し、表現すること	(1) 化学と人間生活 ウ 化学と人間生活に関する探究活動	化学と人間生活	探究活動	水道水の残留塩素濃度の測定
化学	(4) 有機化合物の性質 ア (イ) 高分子化合物 ① 天然高分子化合物	(5) 高分子化合物の性質と利用 ア (イ) 天然高分子化合物について	高分子化合物	天然高分子化合物	糖類 タンパク質 アミノ酸
生物基礎	(1) 生物の特徴 ア (イ) 遺伝子とその働き ① 遺伝情報とタンパク質の合成	(1) 生物と遺伝子 ア 生物の共通性と多様性について	生物と遺伝子	遺伝子とのはたらき	タンパク質 食品 細胞を構成する物質

家庭（共通教科）

科目	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード		
家庭基礎	B (1) 食生活と健康 ア (ア) 栄養の特量や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活	(2) 生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康 (ア) 栄養と食事	食生活をつくる	食生活の課題について考える	食事の重要性 食事の意義 PFCバランス BMI 朝食欠食 食の外部化・簡便化 食文化		
				食事と栄養・食品	心身の健康 栄養素 加工食品		
				生涯の健康を見通した食事計画	食事摂取基準 栄養摂取量 食事バランスガイド 家族の献立		
				これからの食生活	食料自給率 食品ロス トレーサビリティ 地産地消 食育基本法 フードマイレージ ライフサイクルアセスメント 持続可能な食生活		
	B (1) 食生活と健康 ア (イ) 食品の調理上の性質、食品衛生	(イ) 食品と調理		食生活の安全と衛生	表示 食品の保存 食品衛生 食中毒 食品添加物 遺伝子組み換え食品		
				調理の基礎	味の相互作用 食事形式 マナー 調理実習 調理法		
C (2) 消費行動と意思決定 ア 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組み	(2) 生活の自立及び消費と環境 エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 (ア) 消費者問題と消費者の権利	消費行動を考える	これからの消費者	自らの消費行動 地球上のさまざまな問題			
			C (3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費	(2) 生活の自立及び消費と環境 オ ライフスタイルと環境 (ア) 消費生活と環境とのかかわり	持続可能な社会環境	持続可能な社会に向けて	循環型社会 低炭素社会 カーボン・オフセット
						C (3) 持続可能なライフスタイルと環境 イ 安全で安心な生活と消費	(イ) 環境負荷の少ない生活への取組
家庭総合	B (1) 食生活の科学と文化 ア (ア) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化	(4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 (ウ) 食生活の文化 (エ) 食生活と環境	食生活をつくる	食生活の課題について考える	食事の意義 生体リズム 不規則な食事 朝食欠食 栄養バランス メタボリックシンドローム PFCバランス 肥満 痩せ BMI 内食 中食 外食 食の外部化		
				食生活の安全と衛生	食品の選択と保存 食品表示法 食中毒 HACCP 食品添加物 残留農薬 遺伝子組み換え食品		
				食生活の文化と知恵	年中行事 郷土食 伝統食 行事食 ユネスコ無形文化財 一汁三菜		

B (1) 食生活の科学と文化 ア (イ) ライフステージの特徴や課題、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己と家族の食生活の計画・管理	(ア) 人の一生と食事			食事と栄養・食品	生涯の健康 栄養 栄養素 嗜好食品 加工食品 サプリメント 特別用途食品 保健機能食品 特定保健用食品 栄養機能性食品
				生涯の健康を見通した食計画	食事摂取基準 栄養価計算 食品群別摂取量の目安 食事バランスガイド 家族の献立
B (1) 食生活の科学と文化 ア (ウ) おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生、目的に応じた調理に必要な技能	(ウ) 食生活の自立と調理			これからの食生活	食料自給率 食品ロス 食品安全基本法 リスク分析 トレーサビリティ 地産地消 フードマイレージ ライフサイクルアセスメント カーボンフットプリント 持続可能な食生活 食育
				調理の基礎	味の相互作用 作業効率 コミュニケーション 食事形式 マナー 調理実習 調理法 だし
C (2) 消費行動と意思決定 ア (ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費	(3) 生活における経済の計画と消費 ウ 消費者の権利と責任 (イ) 消費者問題の現状と課題	経済生活を営む		これからの消費生活と環境	持続可能な社会 循環型社会 低炭素社会 自然共生社会 ESD ライフサイクルアセスメント カーボンフットプリント 地球環境 CO ₂ 資源 バーチャルウォーター 輸入 消費行動 消費者市民社会 3R 4R グリーンコンシューマー フェアトレード 環境ラベル
ア (イ) 消費者の権利と責任、消費者問題や消費者の自立の支援、契約の重要性、消費者保護の仕組み					
C (3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費	(ア) 社会の変化と消費生活				
C (3) 持続可能なライフスタイルと環境 イ 安全で安心な生活と消費					

家庭（専門教科）

科目	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
フードデザイン	(1) 健康と食生活 ア 食事の意義と役割	(1) 健康と食生活 イ 食事の意義と役割	食生活と健康	食事の意義と役割	栄養素の摂取 生活リズム 一家だんらん 食文化の伝承 マナー 味覚 し好 食生活指針
	イ 食生活の現状と課題	ア 食を取り巻く現状		食をとりまく現状	栄養摂取の変化 生活習慣病 欠食 食生活の外部化 食の簡便化 孤食 個食 食料自給率 輸入食品 安全性 地球環境 地産地消 伝統食 郷土食 スローフード 食品廃棄物 バイオマス フードマイレージ
	(2) フードデザインの構成要素 ア 栄養	(2) フードデザインの構成要素 ア 栄養	栄養素のはたらきと食事計画	からだのしくみと食べ物	栄養 栄養素 欠乏 過剰 水
	イ 食品	イ 食品		炭水化物 脂質 たんぱく質 ビタミン ミネラル	代謝 糖質 食物繊維 中性脂肪 脂肪酸 グリセリン ステロール アミノ酸 アミノ酸評価パターン アミノ酸スコア 脂溶性ビタミン
				水・その他の物質	水溶性ビタミン 血液 機能性成分
				消化と吸収	消化 消化酵素 吸収 排泄
				食事摂取基準と食事計画	食事摂取基準 BMI 身体活動レベル 3色食品群 6つの基礎食品 4つの食品群 食事バランスガイド
ウ 料理様式と献立	ウ 料理様式と献立	料理様式とテーブルコーディネート	料理様式と献立	母乳 離乳食 間食 偏食 学校給食 個人差 やせ願望 ダイエット 拒食症 ファーストフード コンビニエンスストア 生活習慣病 妊婦 高齢者 入れ歯 下痢 便秘 高血圧	
エ 調理	エ 調理	調理の基本	調理とおいしさ 調理操作 調味操作	調理 おいしさ 食習慣 食経験 味物質 味の相互作用 テクスチャー 食材 洗う はかる 切る ひたす 混ぜる すりつぶす こす 冷やす 解凍 だし ゆでる 煮る 蒸す 焼く 炒める 調理器具 調味料	

	オ テーブルコーディネート	オ テーブルコーディネート	料理様式とテーブルコーディネート	テーブルコーディネート	テーブルコーディネート テーブルセッティング 季節感 行事 食器 盛りつけ 空間づくり
	(3)フードデザイン実習 ア 食事テーマの設定と献立作成	(3)フードデザイン実習 ア 食事テーマの設定と献立作成	フードデザイン実習	献立作成	日常食 栄養とし好 食費 作業効率 家族構成 主食 副食 主菜 副菜 供応食 行事食 治療食 食品の組み合わせ 栄養のバランス 季節感 食文化 食の国際化
	イ 食品の選択と調理	イ 食品の選択と調理			
	ウ テーブルコーディネートとサービスの実習	ウ テーブルコーディネートとサービスの実習	食育	食育の意義と推進活動	食育基本法 早寝早起き朝ごはん 体内時計 食料自給率 FOOD ACTION NIPPON スローフード
	(4)食育と食育推進活動 ア 食育の意義	(4)食育と食育推進活動 ア 食育の意義			
	イ 家庭や地域における食育推進活動	イ 家庭や地域における食育推進活動			

保健体育

科目	新学習指導要領	現行学習指導要領	目次大項目	目次小項目	キーワード
保健	(1)現代社会と健康 ア (ウ)生活習慣病などの予防と回復	(1)現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防 (ア)生活習慣病と日常の生活行動	現代社会と健康	食事と健康	栄養素 成長期 肥満 やせ 貧血 ダイエット 生活習慣病 骨粗しょう症 サプリメント
	(4)健康を支える環境づくり ア (イ)食品と健康 (ウ)健康に関する環境づくりと社会参加	(3)社会生活と健康 イ 環境と食品の保健 (イ)食品保健にかかわる活動 (ウ)健康の保持増進のための環境と食品の保健	社会生活と健康	食品の安全を守る活動	食中毒 食品添加物 輸入食品 食品衛生監視員 食中毒予防の三原則

特別活動

領域	新学習指導要領	現行学習指導要領
学校行事	(3)健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の構造などに資するようにすること	(3)健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと